

矢作川流域圏懇談会通信

H30 山部会編 vol.1



発行日：平成30年6月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第46回山部会WGを開催しました！

5月18日(金)～19日(土)に第46回山部会WGが根羽村にて開催されました。今回は、昨年度の活動を総括し、今年度の活動方針について確認しました。山部会のテーマである流域圏担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域木づかいガイドラインに関する今年度の計画を各担当者が説明をするとともに、規約の再確認、9年目以降の体制、9年間のまとめについて意見交換を行いました。



日時：平成30年5月18日(金)～19日(土)

場所：根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」参加者：10名(事務局を含む)

◆主な会議内容

1. 流域圏担い手づくり事例集について

流域圏担い手づくり事例集では、平成25年度から4年間かけ、主として矢作川の中山間地振興に携わる団体（一部川や海の活動団体を含む）の取材記録をまとめ、流域内の多様な主体によるネットワークづくりを支援する「山村再生担い手づくり事例集」を4冊発行しました。昨年度は、取材先として川や海の環境保全や水辺空間の再生・利活用に携わる団体を増やし、川部会と合同で5冊目となる事例集を「流域圏担い手づくり事例集」として発行しました。これらの事例集づくりによる人と人とのつながりをさらに深め、広めることをめざして、4月に佐久島で事例集交流会2018を開催しました。

今年度は、ひきつづき他部会と協働して、「流域圏担い手づくり事例集Ⅱ」を作成したいと思います。

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、今年度も矢作川感謝祭の開催を支援していきます。開催日は9月2日(日)に決定しました。また、矢作川林業担い手100人ヒヤリングについては、ひきつづき森林組合作業班を中心に取材を行います。

3. 矢作川流域森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインでは、以下の項目について情報共有と意見交換を行いました。

◆原田裕保氏（元豊田市産業部長）の急逝について

水道水源保全基金（水1tにつき1円を水道料金に上乗せして、愛知県内の上流の自治体の森林整備を行う方法）という全国初の仕組みをつくりました。故人の実績に敬意を示すとともに、ご冥福をお祈りしました。

◆豊田市の100年の森づくり構想のリニューアルについて

次回WG（豊田）において、豊田市森林課よりご報告いただくことになりました。

◆流域市村の間伐面積の推移について

ひきつづき長野県（平谷村、根羽村）、岐阜県（恵那市）、愛知県（豊田市、岡崎市）のデータを集めます。

◆国の森林環境譲与税に関する情報収集

平成31年度から、全国の各市町村に分配されることになっています。各自治体の使い道が注目されます。

4. 矢作川流域木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインでは、以下の項目について情報共有と意見交換を行いました。

◆長野県の森林づくり県民税について

国の森林環境税の導入に対して、長野県では森林づくり県民税を継続することになっています。現在、国の譲与税と併せて、より細かな支援ができるよう基盤整備を行っています。

◆木づかいガイドライン・木づかい推進について

ガイドラインの作成にあたっては、根羽村森林組合から進めたいと思います。また、木づかい推進については、流域内外に拡大していきたいと考えています。もちろん、懇談会のアイテムである流域ものさしの発展もめざしたいと思います。

5. 懇談会の規約・合同部会の提案・9年間のまとめについて

設立時（H22）に作成された規約について、出席者全員で内容を確認しました。時代の経過とともに精査が必要な項目については、見直しをしていきます。

山川海の相互理解を深めるためには、研究データに基づく議論が必要です。懇談会内外の専門家に発表を依頼し、宿泊をともなった合同勉強会を8月24日、25日に開催することになりました。

9年間のとりまとめについて、山川海の議論を冊子にはどうかなどの提案がありました。今後も懇談会メンバーの意見交換を通して、見える化をめざします。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●流域圏担い手づくり事例集について

- ・今年度は川部会に加え、海部会も巻き込んだ活動にしたいと思う。(服部)
▶事務局から、川と海部会WGにおいて取材協力と取材先の提案を募集してほしい。(洲崎)
- ・昨年度の事例集に関しては、ホームページに位置情報を付して掲載したい。取材者より取材先に活動位置を公表してよいか。もしよければ、場所はどこかを確認してほしい。(石原)
▶事務局から取材者へ依頼をお願いしたい。もし、取材者が動かない場合は、直接取材先に確認してほしい。(洲崎)
- ・昨年度掲載できなかった「鷲流峡復活プロジェクト」「内藤連三氏」については、今年度掲載する。(洲崎)

●矢作川流域山村ミーティングについて

- ・矢作川感謝祭については、内田実行委員長より懇談会へのお誘いをいただいた。前夜祭からの呼びかけをいただいたので、事務局としては対応したいと考えている。(服部)

●矢作川流域森づくりガイドラインについて

《原田裕保氏(元豊田市産業部長)の急逝について》

- ・合併後の豊田の森林行政は、原田さんなくては絶対にあり得なかった。(洲崎)
▶豊田市の森林行政は全国的にみても先進事例となった。原田さんに対して恥ずかしくない活動をしたい。(蔵治)

《国の森林環境譲与税に関する情報収集》

- ・森林面積割 50%、林業従事者割 20%、人口割が 30%で、山のない市町村にも譲与される仕組みである。愛知県では三河はともかく、尾張は森林組合が一つも存在しない地域であり、まずは担当部署を決めている状況だ。(蔵治)
▶根羽村には、平成 33 年度に契約の切れる安城市との分収育林がある。安城市は市域に山林を持たないが、譲与税を使ってその森林を買い取り、環境教育林として活用することを検討している。すぐそばには安城市の野外教育センターもあり、より効果的な活用が期待できる。(今村)
▶岐阜県の動きとしては、通常経費では使い道が不透明なので、受け皿となる基金の創設を促している。(大重)
- ・矢作川流域における森林譲与税の使い道について、情報収集を行いたいと考えている。(蔵治)

●矢作川流域木づかいガイドラインについて

- ・「月瀬の大杉」は観光地として整備されているが、地元の物産を売ればもっと集客力が上がるように思う。(蔵治)
▶多くの方からのご意見だと思うが、観光シーズンは限られており、なかなか難しい状況である。(今村)
- ・長野県の森林認証というのは、どのようなものか。(蔵治)
▶認証には森林認証と木材流通認証があるが、後者をより普及したいと考えている。(今村)
- ・木づかい推進に関して、東京スカイツリーで行う「どこでも餅つき」はいつ頃開催されるのか。(洲崎)
▶正月にスカイツリーの目の前で開催する予定だ。(今村)



◆根羽村におけるフィールドワーク(案内人:根羽村森林組合 今村参事)

《水源の森》茶臼山の山麓には、根羽村と安城市が共同管理(分収育林)する48haの森林があります。緩斜面に分布するヒノキ林や溪谷沿いの落葉広葉樹林は、世代を問わず観察することができ、環境教育林としての利用が期待されています。



《山地酪農》根羽村では、山林を開拓して牛を放牧する「山地酪農」の取組みが始まっています。今回は、ジャージー牛(ユキちゃん)の放牧の様子、信州大学の研究フィールドとしての役割、今後の計画について学びました。



今後のスケジュール(予定)

山の地域部会は、平成30年6月8日(金)豊田市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。